

令和5年度 松田町総合戦略審議会 議事録

1. 日 時 令和6年2月6日(火) 15:00~17:00
2. 場 所 役場 3階 防災対策室
3. 出席者 別紙「名簿」のとおり
4. 配付資料

松田町総合戦略審議会委員名簿

資料1-1 松田町まち・ひと・しごと創生 総合戦略の評価について (案)

資料1-2 地方創生関係交付金事業の評価について

資料1-3 1次評価、2次評価(案)のまとめ

資料2-1 第2期 松田町総合戦略(改訂案)のポイントについて

資料2-2 第2期 松田町総合戦略(改訂案)

資料3 松田町の人口推移について

【参考資料】

- 総合戦略及び国交付金事業の進行管理等について **参考資料1**
- 「新たな日常」を見据えた県西地域活性化プロジェクト展開事業
※地方創生推進交付金事業実施計画書 **参考資料2-1**
- AIを活用したオンデマンド交通サービス推進事業
※地方創生推進交付金事業実施計画書 **参考資料2-2**
- 松田町総合戦略審議会設置要綱 **参考資料3**

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. あいさつ
4. 議 事
 - (1) 第2期 松田町総合戦略の取組みと成果について

①松田町まち・ひと・しごと創生 総合戦略の評価について

資料1-1及び**資料1-3**に沿って事務局より説明

委員： 全体として、令和4年度ということでコロナの影響を考慮した評価であると考えますが、**資料1-1**10、11ページの定住関連の取組については、コロナ禍において積極的に進めなければならない項目だったと思うが、未達成の状況が多い。令和5年度からは逆に都心回帰の動きも見られるなかで、令和5年度以降、新たに拡充して取り組んでいく予定はあるか。また、現在、町内に空き家がどれくらいあるか。

定住少子化対策係長： コロナ禍において、移住の相談件数はオンライン移住相談始めるなどの取組も行って数は増えた。しかしながら、成約には結びつかなかった。理由としては、コロナ禍においては、サプライチェーンの問題もあって家を建てるに

くい状況が一つ要因として考えられる。では、空き家の活用ができなかったかという、潜在的な空き家の掘り起こしができなかったことが反省点だと考えている。空き家の件数については、2、3年前の調査で約130件だった。空き家の活用に向けては、リノベーション又は解体したいという方に対する補助制度を令和5年度に新たに設けた。

会 長： 資料1-14ページの町民マイスターによる出前講座の実施について、具体的にはどのようなことを行っているか。

事務局： 例えば、小学生を対象とした寺子屋まつだの講座に町民マイスターの方に協力いただいている。

委 員： 資料1-18ページの観光について、SNS やメールによる情報発信を進めているとのことであるが、インフルエンサーとの連携は取り組まれているか。

まちづくり課長： 令和4年度まで観光経済課だったので回答したい。インフルエンサーとコラボすると爆発的に情報が拡散されることは認識しており、神奈川県と連携してイベントやスポットの紹介をさせてもらったことがある。また、消費という観点からは、町のブランド認定品について、委託事業者を通じてインフルエンサーに発信してもらったこともあるが、一気に売り上げが2、3倍になるわけではなかった。観光面については、一定の効果があったと考えている。

委 員： インバウンドのお客様は、SNS で見て訪れる方も多いので、国内向けのみならず、海外の方向けの発信も良いかと思う。観光のポスター等の掲示はどの程度実施しているか。

まちづくり課長： ロウバイまつりや桜まつりについては、小田急電鉄に協力いただき、チラシ、ポスターの掲示をさせていただいている。また、情報という意味では、やはりテレビの力が大きく、取り上げられた次の日にはとても来場者が増える。

委 員： 資料1-18ページ、観光に関連して、町内にどれくらい宿泊施設があるのか。また、外国人の観光客を受け入れるための取組はどのようなことをしているか。

まちづくり課長： 宿泊施設について、山間部の寄地区に民宿が4件ほどある。公の施設として、寄自然休養村管理センターがあり、それらが宿泊可能な施設である。ハイシーズンは、合宿や山登りに向かう宿泊客が多い。

外国人の方の受け入れについては、例えば、昨年度の桜まつりで外国人、特に東南アジアの方の割合が高かった。受け入れにあたっては、英語表記のサインの設置や、英語表記の観光向けホームページの作成を行っている。

副町長： 今年度、近隣の市町の協力のもと、ジビエ加工施設を開設した。今後、新たにジビエ料理等を売り込んでいければと考えている。

委 員： 桜まつりのインバウンド向けのチラシがあると良いと思う。意外と外国人向けの観光パンフレットの数は少なく、また、桜と富士山ということで手に取っても

らいやすいと思う。

委員： 高齢化については、全国的に進んでいくのはやむを得ないかと思うが、少子化については、近隣と奪い合うだけでなく、この地域で子どもを産み育てたいと思ってもらうことが重要と思うが、どのような施策を考えているか。また、商工業について、しっかり稼げる地域にしていく必要があると思うが、今後のどのような取組を考えているか。

定住少子化対策係長： 少子化対策として、産まれる前の対策と、産後の対策とあるが、産後の対策について話すと、教育に関心の高い親世代が多いと思われるので、教育環境を充実することが必要であると考えている。そのため、小学校の木造での建て替え、ALTの充実による英語教育の推進などの取組を行っている。

委員： 産まれる前からの取組として、コンセプトンケアの充実など、産み育てやすい環境づくりの検討も進めてもらいたい。

まちづくり課長： 2点目の商工業について、工業については1社優良な会社があり、そこが多くを割合を占めており、引き続き、支援をしていきたいと考えている。新たに企業を誘致できるかという点、用地の関係から多くはできない状況があるが、公有地の活用などにより取り組んでいく構想もある。商業については、時代の変化もあり特に物販の関係は厳しい状況である。一方、飲食等のサービス業はコロナの影響もあるが、特色のある取組みをされている企業はしっかりと継続されている。駅前開発にあたっては商工会と連携して進めていきたい。

副町長： 工業に関して言うと、町内の用途地域は住居系が大半であり、工場を建てることのできる地域が少ない。現在、神山地区の一部地区について、準工業地域として用途地域を変更すべく、地元と協議を進めている。それが実現することで、「働く場」を町内に創出できると考えている。

参事兼政策推進課長： 現在、町内に企業を呼ぶことが難しいところがあるが、神奈川県との連携のもと、近隣市町村に進出してきた企業の従業員に対して、町の魅力をPRして、町に住んでもらえるような取組みを模索している。町の魅力のPRにおいては、継続的な子育て支援が重要と考えている。当町で実施している子育て支援の内容は、他市町村に劣らない内容となっているものの、少子化の傾向は続いている状況である。

令和5年度には、山間部の寄地区に特化した協議会を設置したところであり、地元の方も交えながら、人口増加、維持に向けて必要な取組みを協議している。

会長： 資料1-1の2次評価については、原案のとおりで承認することとしてよろしいでしょうか。

委員： 賛同

②地方創生関係交付金事業の評価について

資料1-2に沿って事務局より説明

質疑等なし

(2) 第2期 松田町総合戦略の改訂について

資料2-1及び資料2-2に沿って事務局より説明

質疑等なしで原案どおり承認された。

(3) 松田町の人口推移について

資料3に沿って事務局より報告

会 長： 社会増減について、令和5年は△108人となっており、令和4年は+23人であった。この要因はどのように考えているか。

定住少子化対策係長： 令和4年については、転出が少なかったものの、令和5年に入り、都心への回帰傾向が強まったことにより転出者が増え、このような結果であったと捉えている。

(4) その他

- ・参事兼政策推進課長よりAIオンデマンド交通（参考資料2-2）について概要を説明
- ・事務局より次年度の審議会開催予定について説明

副町長： 本日は貴重な意見を多数いただいた。

町の賑わいの創出に向け、外国人の方をターゲットにしてはという意見について、直ぐにできることとして外国人向けのチラシなどの作成を進めていきたい。

子どもを産みたいと思ってもらえる環境づくりに向けては、継続して取り組んでいきたい。

仕事の場の創出については、県西地域全体で、県とも連携しながら進めていきたい。

5. 閉 会
